

# 特定非営利活動法人 日本冒険遊び場づくり協会

## 第11回通常総会 議事録

日 時：2014年6月7日（土）13：00～15：00

場 所：東京オペラシティ 第1会議室  
（東京都新宿区西新宿3丁目20-2 東京オペラシティビル7階）

出席者数：出席正会員数	44名	（個人会員 37名、団体会員 9名）
委任表決者数	60名	（個人会員 33名、団体会員 20名）
書面表決者数	23名	（個人会員 16名、団体会員 7名）
正会員総数	289名	（個人会員 201名、団体会員 88名）

### 代表挨拶

開会に当たり、関戸まゆみ代表より挨拶があった。

### 定足数確認

本会議における委任表決者数を含めた出席者総数（委任状含む）は127名であった。現在の正会員総数は289名であり、定款第26条の規定に基づく定足数58名を満たしていることが確認された。

### 議長選任

本会議の議長には、定款第25条の規定に基づき、関戸まゆみ代表より天野秀昭が選任された。

### 議事録署名人の選任

議長の指名により、議事録署名人として、正会員の三浦幸雄・嶋村仁志・関戸まゆみを選任した。

### 議案審議

#### <決議事項>

#### 第1号議案 2013年度事業報告および決算報告

議長は、2013年度の実業報告について、各担当理事に説明を求めた。配布資料（資料1・2）に基づき、三浦副代表から総括が、各担当理事から事業01～08についての説明がなされた。

次に議長は、2013年度決算について佐々木理事に説明を求めた。配付資料（資料3・4）をもとに佐々木理事から2013年度決算、続けて、協会の財政再建の取り組みと震災関係特別会計についての説明がなされた。

ここで、事業収益による収入が増加している現状の説明がなされ、また特定目的寄付金は繰越により震災復興支援事業に充てられること、購入した車両の減価償却がまだ開始されていないことの説明がなされた。また、今後の課題として、震災復興後を見据えた運営への取り組み（認定NPO法人格の取得を目指すこと、応援団（仮称）の新設等）が語られた。

以上の事業および決算報告を受け、議長は監事の福島・奥村両氏に、監査に関する報告を求めた。

福島監事より「会計監査検討経過報告」、奥村監事より「事業監査検討経過報告」がなされた。

上記議案の後、議長は質疑応答を以下の通り行った。

#### 1. 事業01復興支援（東日本大震災復興支援事業）に関する質疑応答

質問者：根本暁生氏

質問内容：委託事業において余剰金が生じているが、返還の義務はないのか。

回答者：三浦幸雄理事

回答：助成金と異なり委託事業である。一定の成果を上げており返還の義務はない。

以上の報告・質疑応答ののち、議長は2013年度事業報告および決算について、議場に承認を諮ったところ、満場一致で定款39条による議決を得た。

#### 第2号議案 理事・監事の改選

議長は、第8期の理事・監事の改選について説明を求めた。配布資料（資料5）をもとに、梶木理事より改選の経緯・手続の説明及び候補者の紹介がなされた。

以上の報告ののち、議長は理事・監事の選任について、議場に承認を諮ったところ、満場一致で定款39条による議決を得た。

ここで議長より5分間の休憩が宣言され、休憩時間中に開かれた臨時理事会において代表・副代表が以下の通り選任された。

代表：関戸まゆみ

副代表：梶木典子・佐々木健二・三浦幸雄

#### <報告事項>

#### 第3号議案 地域運営委員の選任

議長は、第5期の地域運営委員の選任について説明を求めた。配布資料（資料6）と追加資料をもとに、梶木理事より選任の経緯・手続の説明及び委員の紹介がなされた。

#### 第4号議案 2014年度事業計画および予算

議長は、2014年度事業計画について、各担当理事に説明を求めた。事前配布資料（資料7）をもとに、三浦副代表より全体の概要が、各担当理事より事業01～06についての説明がなされた。2014年度予算については、事前配布資料（資料8）と追加資料をもとに林事務局長より説明がなされた。

ここで、復興庁事業が一部不採択のため内容変更となること、首都圏プレーカー事業が日本ユニセフ協会の支援により新たに開始される予定であることが説明された。

上記議案の後、質疑応答を以下の通り行った。

#### 1. 事業01復興支援（東日本大震災復興支援事業）に関する質疑応答

質問者：米山清美氏

質問内容：復興支援事業において、遊び場づくり活動者への協力・支援はどのように実施しているのか。例えば直接的な資金援助の実施などを提案したい。

回答者：須永力理事

回答：直接活動資金の協力はしていないが、物品等の提供は実施している。活動資金は地域の人たち自身で獲得するものだと考えている。

回答者：佐々木健二理事

回答：新しい仕組みを作る「先導モデル事業」という位置づけ上、復興庁事業の中で、直接の資金の支援は不可能。資金援助につながるかどうかは未知数だが、助成する立場の自治体向けの研修は実施していく。プレーキット「あそぼっくす」による支援は検討中である。

回答者：天野秀昭理事

回答：具体的に提案していただければ必ず検討する。アイデアを挙げていただきたい。

質問者：米山清美氏

質問内容：地域の人たちが「自分たちの遊び場を作りたい」「こういうものが足りない」というときに、その思いに応える支援ができるようなシステムがあるとよい。提案したい。

回答者：須永力理事

回答内容：一番足りないのは人材ではないか。遊び場づくりに「協力」する人はいても、中心となって活動する人は少ない。遊び場づくりに取り組む大人を作っていくことが一番大切だと思っている。

回答者：佐々木健二理事

回答内容：協会の活動は「仕組みづくり」。その仕組みと、個々の活動が連携すると支援が得られる可能性はある。ネットワークを作る仕組みを協会が考えていけるとよい。

## 2. 広報活動に関する質疑応答

質問者：山内久二氏

質問内容：助成金の一覧表のようなものを提供してほしい。会報で広く知らせてほしい。

回答者：齋藤啓子理事

回答：応募期間の短いものが多く、年4回の会報では対応が難しい。メーリングリストなどでお知らせしているが、利用者以外への情報提供の機会も検討したい。

## 3. 協会運営に関する質疑応答

質問者：福島智子氏

質問内容：2014年予算の全体の表と、復興支援事業についての表を比較すると、復興支援事業の person 費が変動していないのに、法定福利費が大きく減少しているのはなぜか。

回答者：林理事

回答：当初の予算表作成段階では、人件費にかかる法定福利費を人件費の全般的な基準である30%で概算していた。しかし追加訂正の表を作成するにあたって法定福利費の金額を精査した結果、ここで計上している人件費は常勤の職員給与がほとんどであり、法定福利費15%程度と見込まれるため、この金額に減額した。

## 4. 事業02全国一斉開催についての質疑応答

質問者：米山清美氏

質問内容：提案がある。例えば自分たちの活動の写真を張り付けて使えるようなポスターはどうか。写真展もよいアイデアだと思うが、各地に活動が広がっていることのアピールになるような、地域運営委員も協力して、それぞれの団体が参画できるような一斉開催にしたい。

回答者：林理事

回答内容：よいアイデアをいただいた。T シャツと同様に、オリジナルポスターが作れるような仕組みを検討したい。

以上の質疑応答を終え本議案は終了した。

#### 議長解任

以上をもって議長を解任し、第 11 回通常総会を閉会した。

以上、この議事録が正確であることを証します。

平成 26 年 7 月 28 日

議長：天野 秀昭



議事録署名人：三浦 幸雄



議事録署名人：鳴村 仁志



議事録署名人：関戸 まゆみ

